

東洋英和女学院大学で防大訓練部長による講演を実施

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 細田 2 等空尉）は、4月23日（火）、東洋英和女学院大学（横浜市緑区）において、国際社会学部の学生53名に対し、防衛大学校訓練部長の東（あすま）良子海将補による講演を実施した。

講演では、制服姿の東部長に「わあ、かっこいい」と学生たちから歓声が上がリ、海上自衛隊の任務や活動の説明に続いて、防衛大学校の女子1期生として始まった東部長の自衛隊生活をヒストリー仕立てで振り返った。

練習艦や護衛艦での艦艇勤務や海上幕僚監部での勤務など管理職として多様な経験を積んできたことや、管理職として働き続けることが厳しい時期もあったこと等の実体験に基づく話や「言うだけでなく、実際に行動することを継続・実施することで信頼を得てきた」という力強い言葉を、学生たちはうなずいたりメモを取ったりして熱心に聞いていた。

講演終了後には、質疑応答で「今までで一番大変な任務は何でしたか」等の活発な質問があり、「責任の重さは、やりがいと比例する」という言葉が印象的でした。様々な経験をされてきたからこそこの言葉と感じ、感動しました」と話す学生もいて、国際社会学部の小久保教授から「貴重な体験談は、学生たちの胸に刺さったと思います。同性からのお話だったので、学生の真剣さが違いました」と言っていた。

また、当日は、校内に自衛隊広報ブースを設け、広報官が学生たちに自衛隊の活動や入隊制度の説明を実施している様子を星野三喜夫学長に視察・激励していただいた。

市ヶ尾募集案内所は、「今後も学校のニーズに合わせた企画提案により自衛隊の魅力発信に努め、女性志願者の獲得につなげていきたい」としている。



今春高等工科学校に入校した生徒が来所し近況報告

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 細田 2 等空尉）は、4月30日（火）、今春、陸上自衛隊高等工科学校に入校した小山翔平生徒から近況報告を受けた。

真新しい制服姿で市ヶ尾募集案内所に現れた小山生徒は、約1ヶ月ぶりに担当広報官と再会し、居合わせた他の広報官たちから「おお、似合っている、かっこいい」と声を掛けられると、照れくさそうな笑顔を浮かべ、広報官と笑顔で写真に納まった。

広報官が親元から離れての学生生活について尋ねると、「寂しさはありません」という15歳らしい返答に続いて、授業の様子や部活動の選択で迷っていること、「アイロンがけや裁縫に四苦八苦しています」、「同期たちと時間をやりくりして頑張っています。でも時間が足りなくて大変です」などと忙しくも充実した学生生活の様子を話してくれ、高等工科学校の生徒として日々成長を続けていることを実感した。

小山生徒は、演習場での訓練や銃の取り扱いに話が及ぶと真剣なまなざしで聞き入り、広報官からサブライズで迷彩柄の手袋をプレゼントされると「大切にします」と喜んでいました。

広報官も、「小山君からの連絡はうれしかった。授業内容や部活動のことなど在校時から生の声を聞けてとても参考になりました。短期間で成長した雰囲気伝わってきた」と感慨深い様子だった。市ヶ尾募集案内所は、「これからも後輩自衛官たちに寄り添ってサポートしていきたい。在校生とのコミュニケーションを大切にし、高等工科学校の魅力伝えて志願者獲得にまい進していく」としている。



担当の広報官（左）と小山生徒（右） 懇談中の広報官（左）と小山生徒（右）